

平成28年12月24日

## 平成28年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	NPO 法人 Child First Lab.	職名	代表理事	助成金額	400,000 円
氏名	高岡昂太	メールアドレス	kouta1018@gmail.com		
研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）					
虐待予防のためのペアレントトレーニングのメタ解析とそれに基づいたインフォグラフィックスの開発 —保護者の養育不安の軽減と子どもの問題行動の改善に注目して—					
助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p><b>【虐待予防のためのペアレントトレーニングのメタ解析】</b>  ペアレントトレーニングとは、養育者が子どもとのよい関わりを学びながら、日常の子育ての困りごとを解消し、生き生きと子育てするための養育者向けのプログラムである。わが国でも知的障害や発達障害の子どもを持つ養育者向けに導入され、虐待防止などが期待されている。本助成金を用い、ペアレントトレーニングの普及に貢献すると考えられた2テーマの系統的文献レビューを実施した。</p> <p><b>研究1：メタ解析</b>  ペアレントトレーニングは、プログラム開発同様に、養育者をプログラムにつなげる社会的なしくみづくり、ひいてはそれが実際に虐待防止につながるのか検証する必要がある。そこで申請者は、近年公衆衛生・疫学分野で注目されている豊かなソーシャル・キャピタル（社会関係資本）が子どもの虐待を予防するか、国外の研究を収集してメタ分析を行うこととした。国外の文献を系統的に収集した結果、2,629本の論文が抽出され、メタ分析に向けたスクリーニング作業を行っている。同時に、メタ分析プロトコル論文を国外の学術雑誌に投稿準備中である。</p> <p><b>研究2：レジリエンスに関する文献レビュー</b>  小児期の虐待が将来の精神的健康に与える影響を緩和する要因として、研究1の中から、児童自身のレジリエンスに着目して文献を収集し日本語で総説を執筆した。理由は、ペアレントトレーニングの中でもレジリエンス概念は現在注目されており、日本においても広く活用することが可能と考えられるからである。レジリエンスは近年の研究では発達過程で家族を含む社会との関わりも相まって、後天的に育める可能性がある、包括的な適応能力とも言える。そこで申請者らは、虐待を受けたとしてもレジリエンスが高い場合には成長後のメンタルヘルス不調が緩和されるか、レジリエンスの緩衝能力を確認するべく、国外の文献を収集してシステムティックレビューを執筆した。文献を収集し概観した結果、特に女性において養育者から何らかの虐待を受けても、レジリエンスが高い場合には、成長後のメンタル不調が防止もしくは緩和される可能性が示唆された。国内の研究者・臨床家を含む関係者らと知見の共有を目的として、現在和文で日本子ども虐待防止学会誌「子どもの虐待とネグレクト」に投稿し、査読を受けている。</p> <p><b>今後の展望</b>  メタ解析を行った英語論文本数が2,500本を越えたため、スクリーニング手続きに予想より長く時間がかかった。そのため、現在得られた結果のインフォグラフィックスを作成中であり、論文審査が通り次第、ピアレビューを受けた結果としてインフォグラフィックスを公開し、全国の子どもを守る支援者に対して当団体のWebページやFacebook・TwitterなどのSNSを通して配布予定である。</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合はURLを記載すること。）					
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)		
安藤絵美子, 伊角彩, 高岡昂太, 小倉加奈子, 先光毅士, 福永宏隆	レジリエンスは虐待被害による将来のメンタルヘルス不調を緩和するか：文献レビュー	日本子ども虐待防止学会誌「子どもの虐待とネグレクト」	現在投稿し、査読中		

(管理番号: )